

## 後期研修希望の皆様へ

### 我が国の心臓血管外科専門医の仕組みと当科での研修内容

#### 心臓血管外科専門医申請に必要な要件

自治医科大学附属病院心臓血管外科は心臓血管外科専門医を目指す医師が研修する認定修練施設です。このページでは、2年間の初期研修などを終えて今後心臓血管外科専門医申請に向けた研修を希望する医師向けに、研修医の手術経験目標を掲載いたします。

それぞれの手術は手術の難易度や手術に術者あるいは助手として加わったかによって点数化されており、総点数として500点が心臓血管外科専門医としての申請に必要です。また下記に示すごとく、論文発表や学会参加などの義務もあります。[青字](#)をクリックすると詳細が示されます。

<http://cvs.umin.jp/index.html> は、心臓血管外科専門医認定機構のホームページです。

#### 新規申請資格

- 1) 日本国の医師免許証を有すること。
- 2) 日本外科学会認定医、あるいは外科専門医または外科専門医筆記試験合格者であること。
- 3) 卒後修練期間 7 年以上を有すること。
- 4) 認定修練施設において 3 年以上の修練期間を有すること。
- 5) 修練期間中に別に定める手術経験を有すること。（[心臓血管外科専門医認定のための臨床経験評価方式](#)）
- 6) 心臓血管外科学に関する別に定める一定の業績（学会発表、論文発表）および研修実績（学会参加）を有すること。

[論文・著書](#)：査読制度のある全国誌以上の論文3編以上（筆頭論文1編以上を含む）

[学会発表](#)：全国規模の学術集会において筆頭で3回以上（少なくとも1回は日本胸部外科学会総会または日本心臓血管外科学会総会または日本血管外科学会総会で発表）

[学会参加](#)：

日本胸部外科学会総会または日本心臓血管外科学会総会または日本血管外科学会総会に3回以上参加していること

- 7) 日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会のうちの少なくとも 2 学会の会員であり、3年以上の会員歴を有すること。
- 8) 主たる認定修練施設の修練責任者からの申請者の評価を含めた推薦状を添付すること。

## 当科における後期研修内容

### 1) 手術

心臓血管外科専門医資格申請には外科専門医資格取得が不可欠です。外科専門医資格申請に必要な手術経験数は初期研修の2年間で満たすことが出来ない場合が多いため、専門医研修開始後にそれら不足分を満たす目的で指定施設で約1年間不足分野などの研修を行います。

#### 専門医研修開始1年目（卒後3年目など）

術者としての経験：

動脈血栓摘除術、下肢に対する非解剖学的バイパス術、血管外傷末梢動脈瘤手術、動静脈シャント作成術、静脈血栓摘除術、下肢静脈瘤手術など

第1助手としての経験：

1. 先天性心疾患：PDA手術、ASD閉鎖術、VSD（肺動脈弁下型）閉鎖術、肺動脈弁切開術
2. 弁膜症：三尖弁形成術、房室弁交連切開術
3. その他の心疾患手術：心膜切開・開窓術
4. 体外循環の確立
5. 腎動脈下腹部大動脈瘤手術、ASOなどの四肢血行再建術

第2、3助手としての経験：

全ての心臓血管手術

#### 専門医研修開始2～3年目（卒後4～5年目など）

術者としての経験：

1. 動脈血栓摘除術、下肢に対する非解剖学的バイパス術、血管外傷末梢動脈瘤手術、腎動脈下腹部大動脈瘤手術、ASOなどの血行再建術
2. 静脈血栓摘除術、下肢静脈瘤手術、動静脈シャント作成術、
3. PDA手術、ASD閉鎖術、VSD（肺動脈弁下型）閉鎖術、肺動脈弁切開術
4. 三尖弁形成術、房室弁交連切開術
5. その他の心疾患手術：心膜切開・開窓術
6. 体外循環の確立

第1助手としての経験：

1. 複雑心奇形手術を除く先天性心疾患手術

2. 単弁置換術
3. 上行大動脈置換術

第2、3助手としての経験：

全ての心臓血管手術

専門医研修開始4～5年目（卒後6～7年目など）

術者としての経験：

1. 動脈血栓摘除術、下肢に対する非解剖学的バイパス術、末梢動脈瘤手術、腎動脈下腹部大動脈瘤手術、ASOなどの血行再建術
2. 静脈血栓摘除術、下肢静脈瘤手術、動静脈シャント作成術
3. PDA手術、ASD閉鎖術、VSD（肺動脈弁下型）閉鎖術、肺動脈弁切開術
4. 三尖弁形成術、房室弁交連切開術
5. その他の心疾患手術：心膜切開・開窓術
6. 体外循環の確立
7. 複雑心奇形手術を除く先天性心疾患手術
8. 単弁置換術
9. 上行大動脈置換術
10. 1～2枝冠動脈バイパス術

第1、2、3助手としての経験：

全ての心臓血管手術

専門医研修開始6年目以降（卒後8年目以降など）

心臓血管外科専門医申請に必要な要件をみたすことを主目的とする。

術者としての経験：

1. 動脈血栓摘除術、下肢に対する非解剖学的バイパス術、末梢動脈瘤手術、腎動脈下腹部大動脈瘤手術、ASOなどの血行再建術
2. 静脈血栓摘除術、下肢静脈瘤手術、動静脈シャント作成術
3. PDA手術、ASD閉鎖術、VSD（肺動脈弁下型）閉鎖術、肺動脈弁切開術
4. 三尖弁形成術、房室弁交連切開術
5. その他の心疾患手術：心膜切開・開窓術
6. 体外循環の確立
7. 複雑心奇形手術を除く先天性心疾患手術
8. 弁置換術、弁形成術、maze手術
9. 各種大動脈置換術
10. 冠動脈バイパス術
11. 大動脈基部置換術

**第1、2、3助手としての経験：**  
全ての心臓血管手術

当科での実績を振り返りますと、卒後通算6年間で心臓血管外科専門医資格申請に必要な手術経験が出来ておりますので、余力を持って卒後7年を経過した時点で心臓血管外科専門医資格申請が可能と判断しています。

**2) 論文作成、学会発表、学会参加**

指導医のもとで、学会での症例報告や専門学術雑誌への投稿をしていただきます。また教室としては研修医に関連学会への参加を勧め、学会年会費や学会参加費、論文作成までの経費、雑誌への投稿料などは教室で補助します。

**3) 大学院進学、留学**

3年間の後期研修後で専門医取得前後に大学院進学や国内外への留学が可能です。